

公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2005年12月31日現在）」（以下「現況」）をここに発行する運びとなりました。

「わが国の慢性透析療法の現況」（1978年まで「わが国の慢性透析療法の現況」）の歴史は、人工透析研究会の事務局を率いていらした千葉大学の小高通夫先生が、事務局の業務としてはじめられたアンケート調査に始まります。1986年に人工透析研究会内に統計調査委員会が発足し、初代委員長に小高通夫先生が就任されました。1989年、京都大学澤西謙次先生が第二代、1990年より前田憲志名古屋大教授が第三代委員長に就任され、他疾患領域には類をみない、慢性透析患者に関する詳細な統計成果が、会員に報告されるようになりました。

2000年6月の透析医学会総会から私が第四代統計調査委員長を引き継がせていただきました。初年度は、理事会の強い指示を受け統計調査事務所を名古屋大学大幸医療センターから東京本郷の透析医学会事務所内へ移動いたしました。2001年には大型汎用コンピュータからDOS/Vマイコンと汎用データベースソフト「オラクル」へ変更し、帳票の変更に機敏に対応できるようになりました。このコンピュータの見直しにより、「現況」のCD-ROMによる配布が可能となりました。2002年には「電話帳」と酷評された紙ベースでの「現況」の出版を終了し、重要データを図表化した「図説 わが国の慢性透析の現況」の配布を開始しました。2003年には死因コードの国際標準への移行、データベースクリーニングの徹底、及び「倫理」「個人情報への配慮」および「利用規程」の決定をおこないました。2004年は、従来から指摘されていた腹膜透析患者数が過少に把握されているのではとの疑問に充分答えること、「現況」をより臨床に役立つものとするため、データ解析の迅速化により「現況」へ統計解析の一部の掲載を試みました。

2005年には、腎性貧血ガイドラインや二次性副甲状腺機能亢進症ガイドラインの策定にあたり、わが国独自の、ターゲットに関するエビデンスの構築をはかりました。また、診療報酬の改定に伴い腎性貧血治療内容の変遷を見極めるためにエリスロポエチンや鉄剤の使用状況を調査しました。この調査は今後数年にわたり継続され、わが国の腎性貧血治療の動向を顕かにできるものと考えます。

次に2005年末現在の慢性透析患者調査の経過について報告します。まず、本邦の慢性透析療法実施施設名簿を、本学会施設会員施設名簿に加えて、Key manの先生方などのご協力により非会員施設、新規開設施設、前年把握した転院先・転入元透析施設などを加えて、2005年10月末日に作成いたしました。2005年末の統計調査対象施設台帳の最終施設数は3,985施設と2004年末対象施設数3,932施設と比べて53施設増（1.35%増）となりました。

同対象名簿をもとに11月末にアンケート用紙ないしはフロッピーデスクを送付し、回答をお願いしました。2005年1月末日の締め切りの時点で、回収施設1,627施設（40.83%）と回収率が低かったため、未回収施設に対して統計調査ご協力をお願いの葉書を送付しました。2月末で未回収の施設には再度のお願いのFAXを送信しました。3月に入り、統計調査委員、同小委員、各県Key man、統計調査委員会事務局から電話によるお願いを複数回実施しました。調査用紙の回収は最終的には5月9日で締め切りました。

アンケート回収施設は3,940施設（前年3,882施設）と回収率98.87%（前年度98.73%）と昨年とほぼ同程度の回収率が得られました。未回収施設は45施設（前年度50施設）と「施設の方針により協力拒否」「（多忙・非会員などの理由で）協力拒否」をされる施設、「個人情報保護法などが気になり、関わりたくない」施設が少数ながら存在します。

一方、シート2、3、4未回収は205施設（前年138施設）と増加、全シート回収93.73%（前年95.22%）と僅かながら低下しましたが、全体としては、慢性透析患者の現況を示す統計資料としての質を担保する回収率を維

持することができました。

シート1から集計した2005年末の慢性透析患者数は257,765人であり、前年に比べ9,599名、3.87%の増加となりました。高齢化の進行、糖尿病の増加の中で粗死亡率は9.5%とほぼ同水準を維持できました。

2006年日本透析医学会学術集会においてこの図説が施設会員に配布されます。透析医学会Webサイトにも全文を掲載させていただきます。また、最終的なデータ確認後、この秋にはたくさんの帳票を含んだCD-ROMを施設会員にお送りさせていただきます。

以上、高い回収率で「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2005年12月31日現在）」を公刊できるに至りましたのは、会員をはじめ調査にご協力をいただきました皆様の、本統計調査に対するご認識の深さとご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げます。同時に、統計調査委員会としましても臨床に役立つ情報をできる限りご提供できますよう、更に努力しなければならないと考えております。統計調査記載にご協力いただいた皆様、ならびに全国のKey manの皆様方のご努力に重ねて深く御礼申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会
委員長 秋 葉 隆